

が ん ば

島三小育友会報
発 行 部
広 報 部

〔第75号〕



お父さんを前に

元気よく「ハイ！」

父親参観日の一こま

新たなる胎動の一年

育友会長 成瀬博功

ここ、白山地区に住み、そして子供を第三小学校へ通学させるというご縁によって、皆さんと育友会でご一緒、実に早い一年が過ぎました。この間、会員各位には大変ご苦労いただきましたが、寛大にご協調いただきましたことに深く感謝申し上げます。さて今年、例年の育友会活動に加えて、今後の三小育友会の方向を模索する基本的問題に、いくつか取り組んでみました。その内容については、本号のなかで特別委員から報告があつていますが、ことに特筆すべきは、父親（を中心とした）授業参観に多くの父親のご賛同をいただいたこと

でしよう。

さわやかな感動を生みました。新たな胎動と信じます。ある本に、「草創と守文といずれか難き」ということについて書かれてありましたが、このことを育友会にたとえますと、「草創」とは育友会を初めてつくり、それを成功させる場合のむずかしさの意味で、

「守文」とは、現存の育友会を絶やすことなく維持すること、これもむずかしい。「どちらもむずかしく努力の要ることですよ」ということだと思つていますが、私達にとつて必要な答えは、「守文」において維持的衰退でなく、維持的発展であります。育友会を維持し、なお発展させることにより、地域の全ての子供の幸せを願うことが目標であります。そうした意味では、育友会活動は地域づくりであり、地域興しへとつながります。

「私達にとつて、母なるこの地域。今後も繁栄し、子供達の将来にとつても誇れる地域をつくる。」育友会では、このようなことなども話題にできると思つております。

今年も実施しました町内訪問には、町内を担当いただいている先生方が、すべての町内にご出席いただきました。「お疲れさま」の言葉とともに敬意を表します。

昭和五十九年度は、長い三小育友会の歴史を基礎に、視野を広くし、新しい活動を創り出す時だと思つております。



率先垂範・不言実行は

今は昔か

学校長 江崎勝利

「率先垂範」ということが、わたしの脳裏に強く印象づけられたのは、たしか小学校高学年の修身の時間で、それと同時に「不言実行」ということも学んだことを覚えてい。そして、それが実にすんなりと心の糧となり、実践に結びついていったことも事実である。―当時の世相がそうさせたのであろうか。……今、ここで、そのようなことばをとりあげることについては、それなりの問題意識をもつてのことである。

「先生はよかね。そうじはせんで監督さんだもん。」という現代っ子の声。

これを、「こんなに寒いのに、自分達はぞうきんを持ってそうじをしている。先生も加勢して……。」という願ひからのことばとすれば、かわいさで済む。しかし、自分達だけにそうじをさせて、大人である先生は何もしない。不公平だ。という考えからのことばとしたらどうだろう。……今、学校で、子どもととも

に……ということがある、いろいろな面で叫ばれている。

「師弟同行」誠に結構なことと思う。しかし、自分達だけにそうじをさせて……という子ども達としたら、果たしてそれがすんなりと子ども達の心にくい込み、行動に移されるであろうか。先生がだまってそうじをして見せたら、「先生がしてくれたので、早く済んだ。」ぐらいの受けとめ方しかないのではなからうか。また、一方、家庭では塾・おやつ・夜食等、子ども達の希望に沿うことが最善の策と、過保護に育てられ、ぞうきんなど手にしたことのない子どもたちが相当数と思われる状態の中では、「率先垂範」や「不言実行」は、逆に「耐えることを知らない無気力・無関心の甘え」を養っていることにはならないだろうか。

そのような意味からは、子どもたちの「甘え」に、ちょっとり厳しさを与え、幾分でも支えているのが学校のそうじかも知れない。

「子どもは親の後ろ姿を見て育つ。」ということをよく耳にする。学校では、「教師の後ろ姿を見て伸びる。」とい

うことになるだろうか。たしかに、子ども育ての過程では、人間性あふれる育ての姿であり、また、そうあつてもらいたい。しかし、現実を考えると、およそほど遠いものであることは、お互いが認めざるを得ないようである。

「親や教師の後ろ姿。」これには重大な意味があるのだが、今の子どもたちに、ことばどおりに単なる後ろ姿を見せたとしたら、子どもたちは今ぞとばかり無軌道ぶりを発揮するのではなからうか。前述の教師がそうじを「率先垂範」のつもりでした場合の例がそうである。ここで子どもがそうであるというのではない。しかし、一人ひとりはいい子でも、複数になると思いがけないことをやって、ひたすらに友達を弁護する風潮が消えない限り、「親も教師も前向きな姿で、子どもの心の中にくい込む姿をうちたてる努力」をする必要があるのではなからうか。

親・教師・子どもの中に、真の「心のふれ合いの場」がつくられ、「言わず語らずに目と目で動く」さわやかな絆を望んでやまな



六年間をふりかえって

前児童会長

原口 有

卒業式を前に、この六年間のことをふりかえってみました。

一年生。入学式のときにはじめて会ったばかりの人とけんかをしてしまった。二年生。校舎が火事で焼けてしまった。ぼくたちにとつてすごく、ショックだった。三年生になって、新校舎が出来たときは、とてもうれしかった。

みんな力で合わせて

新児童会長

伯川 信吾

四年生では、長崎の原爆資料館に行き、原爆の恐しさを知った。

五年生。千々石少年自然の家に行き、夜遅くまでおきていたこと。

そして、六年生。児童会長になって、仕事のきつさが身にしみてわかった。

思い出多き小学校生活。この六年間、ぼくたちを教え、みちびいてくださったお父さん、お母さん、そして、先生方、お母さん、ありがとうございました。これまでに受けてきた教えを胸に、一歩一歩努力していきます。本当にありがとうございました。

児童会長を決める選挙があつたよ。日、放送でぼくの名前が、発表されました。そのしゅん間、ぼくの頭の中は、うれし気持ちと「やめていけるかな。持ちはいらない。安な気持ちでいっばいになりました。それでも、みんなが、教えてくれたことを思うと、いっしょうけんめいがんばろうと思います。ぼくの抱負は、まず第一に、きまりを守るように努

次に、思いやりの気持ちを持つ運動をすることです。下級生など困っている時、力になってやったり、生きものによさしい心を持つてかわいがつたりしたいと思っています。

最後に、校内をきれいにすることです。一人で拾うクズは、わずかでも、全員が力を合わせてがんばればとてもきれいな学校になると思います。

盛会裡に終わった

父母参観と講話

父親参加推進委員会 山下利秋

大きな願望と期待の上にて、本年度の重点努力事項である父親参観に向けて、推進委員会を発足させたのが昨年の五月でした。

家庭教育の充実を図るため、子供の教育に対する父親の重要さが認識されつつあるだけに、この企画はぜひ成功させねばならぬと数度にわたって討議してまいりました。

校長先生をはじめとして、諸先生方の深いご理解の中で、私達は慎重に計画を進めてまいりました。育友会だけでは、できないこういう企画を先生方が充分ご理解して下さってご協力していただいたことは、本当に恵まれていたと思います。

私達の意を会員の皆様がよくおくとりいただけると、父親参観についてのアンケート調査に始まり、数回にわたる『がんば』への記載と、学級代議員さんを中心に電話での呼びかけと、一生懸命に活動してまいりました。

二十一日、午後、授業参観と校長先生の講話を実施することができました。期待と不安の中で各教室を回って見ましたが、私達が予期しておりました以上の参加をいただき、心から感謝いたしております。校長先生の意義ある講話が、

特別委員会活動報告

一年をふり返って

今回の授業参観に出席された皆様には、一段と学校を身近かに感じられたのではないかと思います。

父親二六五名、母親三四九名、計六一四名で大参観でした。その日の夕食の時はおそらく、心のふれあつた親子の対話ができたのではないかと思います。子どもの成長の過程で、このような貴重な体験をするのは、これからの生涯に大いにプラスになることだと確信しております。

父母参観を開催するにあたり、諸先生方、常任委員をはじめとする役員さんのご苦勞と会員皆様のご協力に、心から感謝いたしております。ありがとうございます。



子どもクラブの

規模適正化をめざして

子供クラブ活動推進委員会 芝田扶實子

今年度、当初に育友会活動として、初めて特別委員会が設置され、それぞれの分野におかれまして、活動なされてきました。子供クラブ活動推進委員会(生活部・体育部・交通部の各常任委員)といった

しましては、当面の問題として、子供クラブ活動の規模の適正化をはかる、というところで検討してまいりました。

それには、まず「人数の不均衡」、このことは、児童数が極端に多すぎて活動しに行く上に影響がある子供クラブと、反対に児童数が少なく、球技大会などのチーム編成が困難な子供クラブなどを何とか均衡にできないものだろうかということ。又、どうしたら支障のないように弾力的に、子供達が最も活動しやすいようにしてやれるでしょう。各町内が同じような力で活動できる状態が一番望ましいのではないのでしょうか。

そこで問題的な町内には、できるだけ協力をさせていただき、大きすぎる町内は分割、小さな町内は合併ということも考えて、取り組みをしております。具体的には、二、三の町内にも相談しております。

早急には無理でしょうけれど、数年間を見通して隣接町との関係を考慮に入れ、今後の対策として推進して行く所存です。ただし、町内会との関係など、単に規模だけで解決できない問題などが多くあるでしょうが、子供クラブの活動が活発になり、子供達がよろこんで参加できるように、関係町内のご協力をいただけたら幸いに思います。

今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



六年一組 藤井リワ

月日の流れは早いもので、三小に入学してから六年、色々な事が思い出されます。二年生の冬に校舎の火事、自分の、シューズや絵の具が灰になり、明日を心配した子供達。古い机や椅子に釘を打ちました。新校舎の落成。立派な音楽室で聞かせて戴いた学年音楽会。忙がしい数日を過ごしたバザーでも楽しい思い出になりました。素晴らしい土俵が出来ましたので、相撲大会が開催されるようになりました。一番印象に残る日々を過ごさせて戴いたような気が致します。PTAには我が子と学校を知るために、極力出席を心がけて参りました。皆様の

小

三

足手まといになりながら、役員をひき受け育友会活動にも参加させて戴き、多くの方々とも知り合い学ぶことが出来ました。子供と共に自分自身の成長の時期であったことを、嬉しく思います。いよいよ子供も小学校を卒業します。お別れが残念ではありません。お世話になりました校長

先生・諸先生・育友会の皆様、長い間本当にありがとうございました。最後に、島原市立第三小学校育友会のますますの発展を心からお祈りいたします。

六年二組 織田幹夫

この春、六年間の小学校教育を終えて、子供達はいよいよ中学校へ進学します。あどけない小学一年生も今は少女の顔。みんな喜びに輝いています。彼らの体中から発散するはちきれようのない生命力には、そばで眺める私達までをも楽しくさせてくれました。和やかにするこの力の源は、はたして

親

なんなのでしょうか？それは、子供達一人一人が自己に秘められた彼ら自身のあらゆる可能性を信じて疑わないからでしょう。そして、どの子も意見はいろいろとあるでしょうが、結局は「立派な人間になりたい」という願いで満ち満ちているからでしょう。

ともすれば我々父母は、試験の点数・成績だけに目がはしり、それによってのみ子供達の良し悪しを判断し、一喜一憂するというのが唯一の基準だけではないです。人の能力はそれこそ千差万別のはず、

それを一つの基準のみで判断し、ましてやそれによって選別されるとすれば、子供達にとって迷惑千万なことでしょう。迷惑なだけならまだいいが、そのために、せつかくある立派な人になろうとする好學心と明るい素直な心まで駄目にしてしまう。

楽しいはずの勉強がなぜ、次第にほんの一握の人だけが楽しく、残り大多数の子供達が楽しくなくなっていくのでしょうか。そして、立派な人間になろうとする願ひでしょうか。卒業期をひか

えた子供の親として、真の教育の目的はなんであるのか、子供の将来に何をのぞむのかを考えると、できることならば、すべての子供達が楽しく勉強を続けていき、ひいては立派な社会人になってもらいたいものだと思わずにはいられない。

六年三組 佐々木鈴江

桜の花が満開の頃、小さな体がピッカピッカのランドセルがまばゆいばかりの六年前、手を引かれて入学した子供がきました。思い起こせば色々なことがありましたが、重

大ニュースは、二年生の時彼らの教室が火事にあつた事、その時の残念そうな顔は今だに忘れる事が出来ません。それに増して、新校舎の落成の時の笑顔も忘れる事が出来ません。私達父兄にとつても、彼らにとつても、どのような小さな事も思い出の一ページとして残る事でしょう。

それにしても、六年間という歳月は早いものです。その六年間に彼らはいくつもの事を学び得たでしょうか？これからの人生その学び得たものを足がかりに、叶うことなら「すずめ」は「たか」に、「めだか」は「こい」に、「つばめ」は「白鳥」に？と、大いに翔いてほしいものです。最後に、これまでに御指導頂いた教職員の皆様に心より感謝し、また御父兄の皆様にも多大な御協力を頂き、本当に有難うございました。お蔭様で無事に卒業の日を迎えることが出来ました。

反省する事ばかりで、あまりお役に立つ事が出来なかつた事を紙上をもってお詫び申し上げます。

それでは、皆様の御健康と御多幸をお祈り致します。



六年四組 御厨伶子

「光陰矢の如し」と申しますが、月日の流れは早いものです。八年前、長男の手を引き胸をふくらませながら、第三小学校の門をくぐったのが昨日のように思い出されます。二男の卒業を間近かに迎え、いよいよ三小とお別れしなければならぬと思うと淋しさがこみあげて来ます。小雪のチラチラ降る中を、なかなか走って来ない我が子を今か今かと待った、あのマラソン大会・ミカン狩りで小さい体によくばって、持ちすぎてはうようにして帰って来たあの姿子供と一緒ににぎった色々な形をしたおにぎりの味、目を閉じてみますと、思い出が次から次へうかんでまいります。三小での楽しい思い出は、子供も私も生涯忘れることが出来ないうでしょう。

校長先生・諸先生方・それから育友会の皆様、長い間本当ににお世話になりました。心からお礼申し上げます。最後に第三小学校育友会のますますの御発展を心からお祈り致します。

さようなら

六年一組
吉田千春

私のこの六年間は、ときどきさみしいこともあったけど、ほとんどが楽しい思い出ばかりでした。

入学したばかりのころは、学校に行くのをいやがって泣いたこともありました。でも、今は学校に行きたくないなんてことは、一度もありません。「早く学校に行つて、みんなと遊びたいな。」と思うくらいです。

四年生のころ、みんなから仲間はずれにされたことがあります。それ以来、友だちを仲間はずれにするのはきらいになりました。自分がそんなことをされたときのことを考えれば、「仲間はずれ」なんてできないと思います。

また、もうすぐ中学生になるんだから、今までのように、人にたよつてばかりいてはいけないと思います。自分でできることは、なるべく自分でやっただろうがその人のためになると思っています。これからも、みんなと仲良

くして、争いをおきないようにして、こうと思っています。そして、中学生になつても、勉強やスポーツを精一ぱいがんばり、新しくできる友達とも仲良くしていこうと思います。

六年二組 中村光伴

もうすぐ、この三小を卒業する。きつかったことや楽しかったこと。今思えば、「あつ」という間だった。中でも心に残っているのは、児童会役員の選挙。ぼくの組では、立候補する人がいかなかった。たぶん、当選しないだろうと思いがたから立候補した。演説

の時、とてもあがつて下を向き、声も小さくなりがちだった。投票の日には、熱を出して休んでしまった。次の日、どうせ落ちているだろうと思

いながら学校へ行つてみると、放送で書記として、ぼくの名前が呼ばれたので、とてもびっくりした。仕事は思ったとおりむずかしかった。行事のあるたびに計画をたて、代表委員会があった。時々、なまけて先生にしかられた。でも、この経験は自分のためにとて



また、修学旅行もよい思い出だ。バスで多比良まで行き、フェリーに乗つて長州まで。そして、バスで山口の秋吉台、秋芳洞、サファリパークと回り、旅館に着いた。食事をしてからふろに入り、レクリエーションを楽しんだ。ねるときは電灯を消し、枕投げを遅くまでした。次の日は、ふらふらしながら関門橋を渡り、太宰府をとおつて帰つてきた。この六年間、とてもよい思い出です。

六年三組
山崎弥生

この六年間をふり返つてみると、いろいろな思い出が浮かび上がってきます。初めて三小の門をくぐつた時、なんて広いんだらうと思

いました。二年生の時、火事で校舎が燃え、ほんとうの火事の恐しさを知つたあの日。その焼けあととは、すべてがまっ黒でびっくりしました。そして新校舎が完成した時、私たちがその教室に入れるのか

行で、他の組の人と同じ班になり、班が一つになつて行動しなければいけないことをおそわりました。

そして、小学校生活最後の一年間です。修学旅行では、秋吉台・秋芳洞・サファリパーク、下関水族館などを見学。秋吉台では、全員がいっしょになつて、土産物を買うのにとて苦勞しました。運動会での「静と動と美」。どろまみれになりながらも、みんな一生けん命やつたかいがあつてうまくいきました。先生が笛をまちがえるくらいすばらし

かったです。また、応援合戦では絶対抗となり、応援のやり方をくふうしました。六年生として、下級生の手本になるようにして卒業したいと思います。

六年四組 苑田博幸

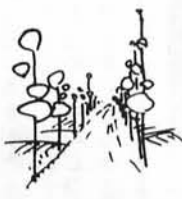
小学校に入学してもう六年。ふり返つてみると、いろいろなことがたくさんあつた。例えば、三年生ごろからはじめてソフトボールを通してできた、低学年から高学年までのたくさんの友達。そして、思い出。また、学校が火事で焼けた時、そこには校舎など建つて

いなくなつたようなうすです。ただ、黒くこげた校舎のかけらが残っているだけだった。火事の恐しさを感じた。

そして、初めて学級委員になつた時、どんなことをすればよいのかわからず、学級委員としての仕事がいままでできなかった。でも、今まで三回学級委員をしてきて、いくら自分一人で一けん命がんばつても、学級のみんなが協力してくれないと、どうにもならないことがわかつた。六年になつて、子どもクラブの部長になつたときも、町内で初めて

のクリスマス会の計画を、大人の人たちと話し合つたり、準備したりでたいへんだった。ほんとうに、あつという間の六年間でした。四月からは、いよいよ中学生になる。中学校に行く、小学校生活とはい

ずいぶんちがつてくる。だから、中学生になったら、これまで以上に、何にでもやる気を出してぶつかりたいと思う。



環境部

部長 前田 清徳

大局着眼、少局着手、という言葉がありますように、私達環境部は、子供達の健全な成長を願い、いろいろな活動に取り組んでまいりました。でもあまりできなくて、会員の皆様には御不満の点多々あったのではないかと申し訳なく思っています。

一年間の反省といたしましては、一学期、プール周辺の除草作業を行ないました。あいに途中から雨に会い、参加をしてくださ



ふりかえって

ました皆様方には大変ご迷惑をかけた。二学期は学校の遊具や施設などのペンキ塗りをいたしました。このような活動は、私達子供を持つ親としての責任行動の一端であることをよく認識され、協力して下さいました皆様の暖かい心に感謝いたしております。校長先生におかれましては、率先して

作業をされ、後日、繊細で暖かい心くばりのお礼状を書いてくださいました。改めて御礼申し上げます。

一年間環境部の活動に協力をしてくださった諸先生方や会員の皆様、本当にありがとうございました。

生活部

部長 児玉 勝利

一年間の生活部の活動においては、育友会の皆様のご協力を頂きまして、大変ありがとうございました。

生活標語の募集については、多数の秀作が集まり、その中より二十部選出して各町内に掲示しております。

町内巡視については、各町内育友会の方で、例年通り行なわれたことと思います。

七月八日に生活指導員研修会を開催いたしました。講師に深江町健全育成協議会の会長さん(薄田藤和氏)をお招きし、「親と子について」子供達の地区における教育について」などをお話していただきました。三小育友会の皆様方の熱心さに感心しておられました。

例年夏休みに行なわれてい

る町内訪問においては、今年度は当初の計画通り、一晩に三町内にお邪魔いたしました。が、所期の目的は達成できたと思います。育友会員の少ない町内では、夫婦揃いで参加していただき、子供の教育面、育友会のあり方などについて熱心な話し合いの場を作っていたいただきました。しかし、大きい町内の中には代議員さんまかせの町内もあったと思います。来年度も行なわれることと思いますので、ぜひ全

学級部

部長 森 秀子

今年度の育友会行事全てが、まもなく終わろうとしています。

振り返ってみれば、長いような一年も今では短く感じられます。六月に実施した学級代議員研修会には、ほとんどのクラスから参加していただき、大隅先生にとっても参考になるお話をさせていただきました。

七月の学級対抗バレーボール大会も会員の皆様のご協力、本当に素晴らしいチームワークを見ることができました。

十一月には、江崎校長先生を講師にお迎えして、教育講演会を教養部と合同で開催いた

員の方へご参加いただきたいと思ひます。

今年一年間、校長先生並びに先生方、育友会員の皆様のご指導ご協力、大変ありがとうございました。

さらに充実した育友会活動が行なわれることを心より願う気持でいっぱいです。

交通部

部長 岩本 宏三

交通部の一年間を省みると、七月十九日自転車の一点検と保険の加入(TSマーク一

ことができました。会員として九年間本当にありがとうございました。

三小育友会の益々のご発展を心よりお祈りいたします。



台に付き三〇〇円)を行ないました。加入率は市内小中学校の中で当校が最下位でした。十一月二十三日「自転車の楽しい乗り方教室」を聞きましたが、今年度は昨年とやり方を少し変えてみました。

専門部一年間を



最後にになりましたが、学校長はじめ各先生方、交通安全協会、白山地区交通指導員、自転車店、町内代議員、各町内育友会員の皆様のご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。交通安全母の会の研修会に出席された皆様、お疲れ様でした。

体育 部

部長 熊本 勇治

部員の皆様方、一年間体育部の行事に積極的に参加いた

学科（交通知識）と技能（安全走行）のテストを行ないました。その結果全員に修了証を渡すことができました。来年度は実施回数も増やし、三年生以上、全生徒に受講してもらいたいと思います。また、運動会の際の自転車、バイクの整理整頓と下校時の交通指導、毎月五日の日と夏休みの登校時の交通指導などを行って

だきましてありがとうございます。一年間の反省をしてみたいと思います。七月は恒例の子供クラブ球技大会、男子ソフトボール、女子フットベースボールを行いました。子供達が数多く、楽しく参加できるように、パート別としています。子供の数少ない町内が合併できず、代議員さんは困られていましたが、合併の組み直しで解決できました。でも来年度は、町内の合併、分割の問題で育友会の特別委員会で積極的に取り組んでいますので、五十九年度は解決できると思っております。九月に相撲大会、親子フットベースボールを同日開催で行いました。代議員さんは目が回る程だったと思いますが、応援の父兄の方は予想より多量に盛会に終了しました。相撲も第二回目が終了、今後は益々参加も多くなり、市内でも負けない大きな大会になると思っています。秋の育友会町内対抗バレーボール大会は、前年度よりチームの数は減少しましたが、会員相互の親睦は十分な成果があったと思っております。来年は今年以上のチームに出場していただき盛り上げてもらいたいと思います。市連Pの行事は八月の

フットベースボールがあり、三小地区は他校より多くのチームに出場していただきました。二月に駅伝大会が毎年行なわれていましたが、今年から中止となり大変残念に思います。一年間ご協力、たいへんありがとうございました。

保健給食部

部長 原口 芙蓉

三学期もあと残り数日となりました。保健給食部は女性部員八名で、①一年生父兄の試食会 ②食品工場見学（コココーラ基山工場）③六年生を対象とした体験学習を兼ねた「おにぎり大会」と「試食会」以上、三つの行事を行なっ



まいりました。特に二月に実施しました「おにぎり大会」は、六年生と父兄と共に卒業前の楽しい思い出をというこで計画しました。初めての試みでしたが、いろいろ反省すべき点がありました。一クラス二十名余りの父兄の参加があり、楽しい一日を過ごすことができました。体験を通して、親と子のふれあいを深めるという当部の目的は達せられたものと思います。寒い一日、ご協力下さいました。部員の方々、先生方、役員の方々、役員の方々に厚くお礼申し上げます。なお、来年度も実施の時期、方法などをよく検討の上、何らかの形で続けてほしいと思っております。

教養 部

部長 松尾 正敏

一年間、自分の勉強のためという大役をお引き受け致しました。年度当初は、あれも

したいこれもやってみたく思っておりましたが、今振り返ってみると、自分の思っていたことの十分の一もできて何が何だか解らない内に過ぎてしまったというのが素直な実感です。あの時はこうすれば良かった、この場面では：等と反省することはかなりの一年間でありました。さて、教養部の行事は少なく計画はしておりましたが、その時々を思い出しますと、参加者が少なく、前日の夜まで役員さんに要請方をお願いして、やっと人数を集めた長崎での研修旅行。どういいう話でできるのか興味ある反面、心配もした町内訪問。とにかく視聴覚室が満席になることだけ念じた教育講演会等々、毎々に本多茂先生と藤井副部長さんに尻を叩かれながら、何とかやっております。その中で気がついたことは、やはり何事も育友会の方々のより多くの参加と、一人ひとりの意識の向上というものが最も大切であり、それがすべての活動に表れるようになった時、さらに、より良い教育への理解と環境作りがなされていくものだ、改めて感じさせられました。皆様のご協力を心より感謝申し上げます。一年間、本当に有難うございました。

教師の目

正しい姿勢で

何でも食べよう

二年担任 松尾政子

朝食、給食、夕食と一日三度の規則正しい食事は、日常生活の中の大きな節目で、また健康を守るうえでも大切なことです。

学校では毎日給食を食べています。みんなといっしょに食事することは楽しいものです。給食時間は食べることでなく、

○正しいマナーで、衛生的に栄養を考えて、残さないで

湊新地

森川裕子

子どもクラブ紹介

私たち湊新地子どもクラブは男子九名、女子十九名、計二十八名の子どもクラブです。

町内の行事では、月二回の公園のそうじや廃品回収、夏休みには町内旅行などがあります。また、ソフトボール大会やフットベースボール大会のため、男子も女子もいっしょうけんめい練習をしています。

廃品回収では、お父さんや

食べることです。

○食器や配膳台をよごさないように盛りつけをする。

○運びやすいように整理してかたづけろ。

などがあります。

学年の終わりに、この一年間をふりかえり、上手な食べ方をしてきたか反省してみよう。

もう、このごろでは低学年でも係り当番で盛りつけたり、お母さんたちが出てくださり、私たちは、大きなリヤカーを引っぱって、紙類や本、そしてびん類などを、町内の協力を得て集めます。一年から六年生まで男女力を合わせてがんばりました。

夏休みの子どものクラブの旅行は、火の国ランドでとても楽しい一日を過ごしました。

公園のそうじは、朝早いなかを、お父さんお母さんたちも手伝ってみんなですませいになる公園を見ると、とても気持ちよくなります。このようにして、私たちのクラブは、みんなで力を合わせてがんばっています。

配膳など上手にできるようになりました。また、決められた時間内で食べ終わることもできます。

但し、学級の中には、献立でもよりますが、偏食のひどい子、時間内にすませない子、などが目につきます。食事をしながら学年相応に栄養指導もしていますが、最近では、食べ物がいやになつて、少しまずいとすぐ残したり、好ききらいを言って残す人もいます。

この点につきましては、給食時だけでなく、家庭の協力が大切ではないかと思えます。特に時間内にすませないことの原因にはいろいろです。その時の体調、または気分的なこと、箸やスプーンの持ち方使い方が正しくできないため時間がかかるようです。学校でも箸の持ち方などの指導は

していますが、なかなかおられません。家庭でも気をつけてなおしてください。

まだ、いろいろありますが、食事をする時は、よい姿勢で何でもよろこんで、おいしくいただくことが大切です。家庭でも食事は子供と親と一緒に味わって食べ、よい習慣が身につくように協力ください。

編集

後記



広報部を担当してまもなく一年が過ぎ去ろうとしていきます。

幾多の先輩達の努力によって築きあげられた「がんば」の伝統を汚すことなく、更にいくらかの前進ができればと努力してきたつもりですが、さて、一年を振り返って見ますと、諸先輩によって敷かれたレールの上を、何とか脱線させずに走ってきたというのが実感です。しかし、これも坂庭、林田両先生を始めとする部員各位の協力があったればこそです。

新しい年を迎えた時は、漸新でユニークな発想による「がんば」作りをと考えていたのですが……。

71号は会長、校長先生の挨拶に始まり、各専門部長の抱負などにページをさきました。72号は夏休みを前にして親の思い出、子供達の計画など、73号は町内訪問の成果と山崎先生の研修視察報告、そして

山下父親参加推進委員長の呼びかけです。74号では、釘田さんの「わが子大輔」が大きな反響を呼びました。

そして、75号は専門部の反省と卒業して行く親子の感想などを掲載いたしました。

各号の企画会議と原稿依頼そして、わりつけにと時間をさかねばなりません。が、なかなか雰囲気の中にもいろいろな意見が飛び出し、大変実りのある一年でした。

広報部に限ったことではありませんが、できるだけ多くの人に育友会役員の経験をしていただき、その苦労と喜びを味わって欲しいと思う次第です。

最後に、この一年ご多忙の中、貴重な原稿をお寄せいただきました。心よりお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

- (58年度広報部一同)
- 坂庭克雅 林田 昭子
 - 小島健一 下田紗基子
 - 小島秋澄 森川静子
 - 松下和子 織田幹夫
 - 酒井智好 佐原寿美子
 - 斉藤明子